

(様式 3)

平成 24 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

研究テーマ名称	手話言語学を世界へつなぐ—メディア発信と e-learning 開発に向けて—
応募事業区分	支援区分(A)「戦略的共同研究Ⅰ」
申請代表者氏名	菊澤 律子

○ 研究状況報告

初年度の研究計画にのっとり、国立民族学博物館で主催した手話言語学および言語学関係のシンポジウムの講演をインターネットで配信した。また、その中のいくつかを選択し、ウェブ上で掲載するための手続きを進めた。旅費が当初予算より少なくなり、役務と謝金が増えているのは、より効率よく作業進めて行くために方向性を年度途中で修正したことによる。すなわち、素材を制作して行く中で具体的な形を検討すること、また、ホームページの作成は完成を待つよりも試作品を掲載する方向で考えた方が良く考えた。したがって、2 年度以降に予定していたウェブサイトや e-learning の雛形の制作等についても初年度よりすでに取り掛かり始めている。3 月の研究会では、参加者それぞれの立場や専門を生かした活発な意見を聞くことができ、今後の取組みにぜひ、生かしていきたいと考えている。

二年度目は、手話言語学に関する講演の映像素材等の収録に加え、素材を web 上で掲載するための理想的な形に結びつけるための方法を探ること、素材の作成を効率よくルーティン化するための手法の検討等を進める予定である。

○ 当該事業年度において達成された研究成果

- 1) 研究組織参加者のメーリングリストおよび Facebook のグループを作成、広く一般社会の手話関係者との連絡及び本プロジェクトの広報のため、本プロジェクトのページ <http://www.facebook.com/SSL.Sokendai> を作成。
- 2) 手話言語と音声言語の国際シンポジウム(1)「言語の記述・記録・保存」(別経費による事業)のストリーム配信および映像収録を行った。ストリーム配信は、合計アクセス数 600、常時アクセス数 12 から 30。
- 3) 2) の収録映像を素材として配信用のサンプルデータを作成した。作成した内容は以下の通り。
① PowerPoint 画面 + 講演者、英語字幕およびアメリカ手話通訳の映像、② PowerPoint 画面 + 講演者、日本語字幕
- 3) 9 月 12・13 日および、3 月 4 日にハワイ大学の言語記録教育センターで研究会開催。既存のプログラムを応用して、手話言語の記述に関する講義をインターネット配信するための計画を具体化した。また、現在のプログラムを素材として、以下のサンプルデータを作成した。③ PowerPoint 画面 + 講演者、

(様式 3)

平成 24 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

英語字幕、④PowerPoint画面＋講演者、日本語字幕

4) 本プロジェクトの成果公開のためのウェブサイトを作成した。

<http://www.minpaku.ac.jp/sokendai/ssll/index.html> (未公開、ID: sokenssll Password: ID8j)

5) 3月8日に、①～④およびウェブサイトを題材とし、問題点を洗い出し、今後の方針について議論した。

○ 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト (論文があれば添付)

現時点でまとめたものはないが、インターネット配信等を係るノウハウ研究報告の形でまとめる手続きを進めている。

以上

(様式 3)

平成 25 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

研究テーマ名称	手話言語学を世界へつなぐ ーメディア発信と e-learning 開発に向けてー
応募事業区分	事業枠①「戦略的共同研究Ⅰ」
申請代表者氏名	菊澤 律子

○ 研究状況報告

計画通り、事業をすすめている。(具体的には次項参照。)

本プロジェクトの目標である「基盤づくり」については、目標を達成しつつある。最終年度として、①ウェブ資料の持続的な掲載を今後どのように進めるか、②カスタマイズできる配信形態の実現化の長期的な視野からの見通し、③具体的な評価方法の検討、④研究利用のための公開方法と許諾申請に関する検討、が課題となっている。

○ 当該事業年度において達成された研究成果・今後の展望等

- 1) 初年度に広く一般社会の視聴者との連絡を目的として作成した Facebook ページを活用した。

<http://www.facebook.com/SSLL.Sokendai>

2014年4月11日現在451名の登録者があり、一般に関心をもたれる掲示(公募情報など)の掲載には24時間で1000件を超えるアクセスがあるなど、国内のろう・聴者を対象とした手話言語学に関する情報発信・コミュニケーション媒体としての役割を果たすようになったと評価している。今後は、こちらからの発信だけでなく、登録者に利用してもらうための工夫ができればと考えている。

- 2) 本プロジェクトの成果公開のためのウェブサイト

<http://www.minpaku.ac.jp/sokendai/ssll/index.html>

の改善点について検討し、現在のストリーミングサーバーからYouTubeのような媒体掲載の埋め込みに移行することに決定し、移行のための手続きをすすめている。検討課題として、映像の数が増えた場合に使い勝手を良くするため掲載形態を改善し、サイトへのアクセスや利用方法に関する評価方法を考える、などがある。また、ウェブ上でアクセスできるリソース(OER)としての利用を促進する方法について検討する。

- 3) 字幕・手話通訳付きの映像の編集をすすめ、現在、YouTube で以下の映像が閲覧可能となっている。(許諾等手続き中のため、URLの取り扱いに注意してください。)

オリジナル音声 + 四言語(日本語字幕・日本手話通訳・英語字幕・アメリカ手話通訳)つき映像(1講演分)

(様式 3)

平成 25 年度学融合推進センター学融合研究事業 研究成果報告書

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLkK5thourlMdrCcnwwywGQ5c1OmGEg0Z9>

オリジナル音声 + 二言語(英語字幕・アメリカ手話通訳)つき映像(10講演分)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLkK5thourlMfqFrzraLcNyW3eCHVcZApR>

オリジナル音声 + 二言語(日本語字幕・日本手話通訳)つき映像(7講演分)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLkK5thourlMd5CNHSz4DFBfLNz5F00Z1A>

オリジナル音声 + 一言語(英語)つき映像(5講演分、うち、4講演を以下に掲載)

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20130210>

- 4) カスタマイズできる配信形態のサンプルを作成した。技術的な側面を含め、実用化にはどうしたらよいか、関連諸専門家やNPO、業者などと話をして検討をすすめ、本プロジェクトの趣旨に沿った成果物を作成するための方針をまとめた。

- ① 配信対象を一般とすること(ろう者に限定しない)
- ② 開発時における配信媒体はウェブとするが、将来的に完成品をタブレットに拡張することを視野に入れて開発すること
- ③ 柳沼、菊澤がコアとなり、技術者を含めた開発チームをつくる
- ④ プロトタイプを作成→実用化
- ⑤ 利用者側からの評価等

本プロジェクト範囲内で以上すべてを行うことは難しいが、プロジェクト終了までに人の配置を含めた開発チームを確保した上で今後の研究開発計画をたて、実現化に結び付ける。

- 5) 編集前のデータ(現場で撮ったままのデータ)は、現在、すべてを保存している。発話分析や通訳論等、その他の研究に利用できるデータであるため、公開形態(限定、非限定、研究者限定等)の検討と掲載許諾に関する手続きをとるための詳細を検討する。

- 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト (論文があれば添付)

なし。

ウェブ掲載物については上記参照。